

Kamishihoro

街彩探訪・かみしほろ



附録 発行 2001年10月発行

編集・発行/上士郡町役場企画課
北海道河原郡上士幌町 TEL01564-2-2111(代)

大自然にあそぶ

上士幌町のシンボル熱気球、1974年日本で初めての熱気球大会「第1回上士幌町熱気球大会」を開催し、以来大会の規模は徐々に大きくなり、現在では約100名が参加する大規模な大会になりました。この熱気球大会は、町民の交流の場となり、上士幌町の熱気球は切り離すことのできない関係になりました。毎年8月には「北海道熱気球フェスティバル」が開催され、2月には「上士幌ワインメーカーズ・オープンフェスティバル」が、町全体で開かれ、シンボル熱気球大会も開催されています。



Kamishihoro 街彩探訪・かみしほろ

特集1：大自然にあそぶ

- 大自然にあそぶ.....1
- 空から考えるまちづくり.....3
- 森が育むもの.....5
- 水が与えし生命のふさと.....7

特集2：自然の恵みに感謝して

- いのちを育むもの.....9
- ふれあって、心がいきいき.....11
- 人が作る生きた町並.....13
- 素晴らしい歴史の遺産・アーチ橋.....15
- 子や孫に財産として残せる森と資源を.....16
- 温泉街再生.....17

上士幌町の物産・イベント

- 街彩探訪.....18
- 上士幌町のあゆみ.....19
- 上士幌町の概要.....21
- 上士幌町の概要.....22





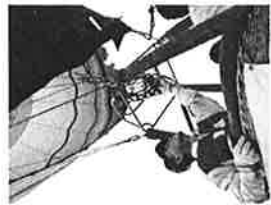
Looking at our growth from the sky, Kamishiro is known as the "Town of Hot Air Balloons." Balloonists from around Japan gather at the annual balloon festival. Mr. Nakai, a balloonist for 17 years, hopes to revitalize the "Town of Hot Air Balloons."

空から考えるまちづくり

昭和45年、日本で初めて熱気球の集団フライトが行われ、競技会が開催されたのが上土幌町。以来日本選手権も開催されるまでになり、国内外からも多くの人が訪れる熱気球の町として成長してきました。

平地が多く気流の安定、そして離着陸に欠かせない牧草地があることが、フライトの条件に最適なんですよ。

バルーンピストの中井さんは、空から上土幌の魅力を語ります。日本では佐賀県でも熱気球の大会が開催されており、町ぐるみで交流を行っ



中井 靖彦さん

バルーンピスト
Yasuhiko Nakai

上土幌町は、熱気球の町として全国的に有名。毎年開催されるバルーンフェスティバルには全国からバルーンピストが集まる。パイロット歴十七年の中井さんは、空からのまちなしを願っている。

ています。バルーンに関わる人材育成、上土幌の自然を生かしたスポーツ振興の視点からも、他の町との交流が大切な中井さんは語ります。

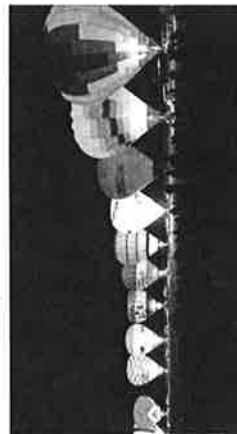
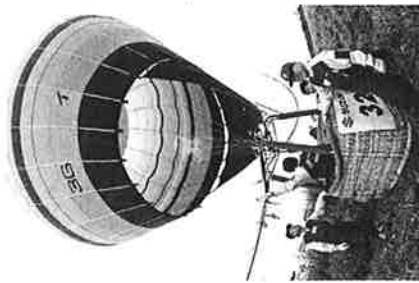
「熱気球競技は、技術はもちろん、何よりチームワークが大切。パイロット、競技の記録を行うオペレーター、気象状況を見るウエザーナーなど、それぞれが自分の力を出すことが結果につながります。そして安全なフ

ライトのために、みんなが心を一つにする」と

まごころにも同じ姿勢で取り組んでいる中井さん。空から眺めることにより、上土幌の自然や、人の素晴らしさを再発見しました。

「空を飛びたい気持ちに任せているように見えるでしょう。その風景には特別な空気してくれる地域の人がいる。まごころな人の協力が、この町で気球をあげたいとい

う熱意に支えられています。この素晴らしい風景が上土幌の原風景となるように私たちが頑張らなくては」
白い気球の地平線、浮かぶカラフルな熱気球。上土幌は自然と人が空で融合できる、素晴らしい町です。





日本で最も広く、最も原始的な山岳国立公園の大雪山国立公園。約3万回のちろちろが東大雪と言われ、そのほとんどが十勝に属しています。上士幌が世界に誇る、貴重な動植物の宝庫であり、手つかずの自然が今も残る東大雪の山々。その東の玄関口、軽井沢県に「ひがし大雪自然アイドセンター」ができて、年がたちます。

「昨今のアウトドアームを後目に、東大雪の自然は儼かに時を刻んでいるように感じられます。神が宿る...という言葉がびたりと来るほどの自然が両手を広げているのです。自然に背きながら現代を生きている人こそ、ここで自然の素晴らしさを表

感してほしいと小澤さんは言います。「東大雪の自然は特別ですね。自然と人が昔から守ってきた距離感が、今でもありそうな気がします」

北海道にたくさんの観光客が押し

寄せるとしても、騒がしいところは無いではありません。流れ込みが、その家族がそれぞれに自然との対話や自分の心の内との対話を楽しめるような静かさがあります。

「川川方面、沢渡橋との交差点の裏所であるので、夏は地元の人は多いんですけどね。ここは山好きの人や、ちよと寒わつた人が来るところなのでしょう(笑)」

ヒグマエントングキタキツネトウモモンガ、エゾリス、シマリスそして水河柳からの生きた化石とも呼ばれ

日本一の山岳国立公園。貴重な動植物の宝庫。その豊かな東大雪の自然が教えてくれるものをさまざまな活動を通して発信していきたいと言います。それが、東大雪で自然とともに生きる人間の使命だからと。

るまきやさやなど、鳥類でもミエビなど、クマやクマ、シマリスやクマなど貴重な動物が多く生息します。貴重な山岳植物も多いこと知られています。

「カイトセンターは東大雪の自然の魅力を伝えるための一つの存在が「ひがし大雪博物館」です。東大雪の自然が世界中の珍しい昆虫を展示している自然昆虫系の博物館で、コシノエの虫、餌ともに日本樹の観察を促しています。」

「この施設は、アウトドア系で

すが、私達は一週間のアウトドアではなく、東大雪、軽井沢だけではなくは感じられない自然との付き合い方を提案すると同時に、身近な自然との関わり方も提案していきたい。それがこの自然相手の仕事をやる人間としての使命だと感じています。」



小澤 克彦 さん

森が育むもの

ネイチャーガイド
Katsuhiko Ozawa



When forests nurture
Daisetsuzan National Park is the largest mountain national park in the nation and the only one in Kamikobu town. It is a haven of precious plants and animals. The park has various activities. Mr. Ozawa is a guide who shows people what can be learned from the park. He is a guide who shows people what can be learned from the park. To teach people about the park and its nature is the pleasure of nearby. Mr. Ozawa.



「鱒平湖では100もあるマスが
釣れるんだ」
と釣り師であり釣り人でもある
山本英一さん。鱒平湖に惚れ込んで、
上士幌町に住み着いた一人です。
終戦後の復興期とともに本格的な
電源開発が始まり、発電用として鱒
平ダム工事が始まりました。昭和
30年完工とともに、周囲32kmの
人造湖「鱒平湖」が完成しました。
湖の西には摩本谷の山々が折り重
なるように見え、今では自然湖のよう
な落ち葉のたたきまらを見せてく
れます。
大きな魚のかけらきを楽しむた

めに、全国から釣り人が訪れる湖に
は、サクラマス、ニジマス、そして
大きなウラウラトウゴイなど様々な
魚が生息しています。また冬には凍
った湖上にリカサ釣りするためのテ
ントが建てられ湖上は格別の賑わい
をみせます。魚
がたくさんいる、
つまりそれだけ
水も森林も豊か
だということな
のです。
「上士幌では、
町の財産として
鱒平湖や、音更



川を守り、育てる活動をしています。
マス類は川を産卵のために登ります
から、産卵場所となるような小砂利
の場所を作る努力をしています」
そうした活動が、鱒平湖を豊
んでいくのです。そして、また自然
との対話を楽しみ、魚たちを釣り上
げようと、人が湖を訪れます。山深
く抱かれた鱒平湖はロケーションの
良さも釣り人に魅力的な場所だと、
山本さんは言います。
「これからは、他の町村とも情報
交換しながら、きれいな川、きれいな
湖を後世に残していきたいですね」
ダムにはイワナマスが飛び、田圃
にはサケマス、エゾシカやクマも
もすんでいます。鱒平湖や音更川を
もっと多くの生命を育む場所だ。山
本さんの願いです。

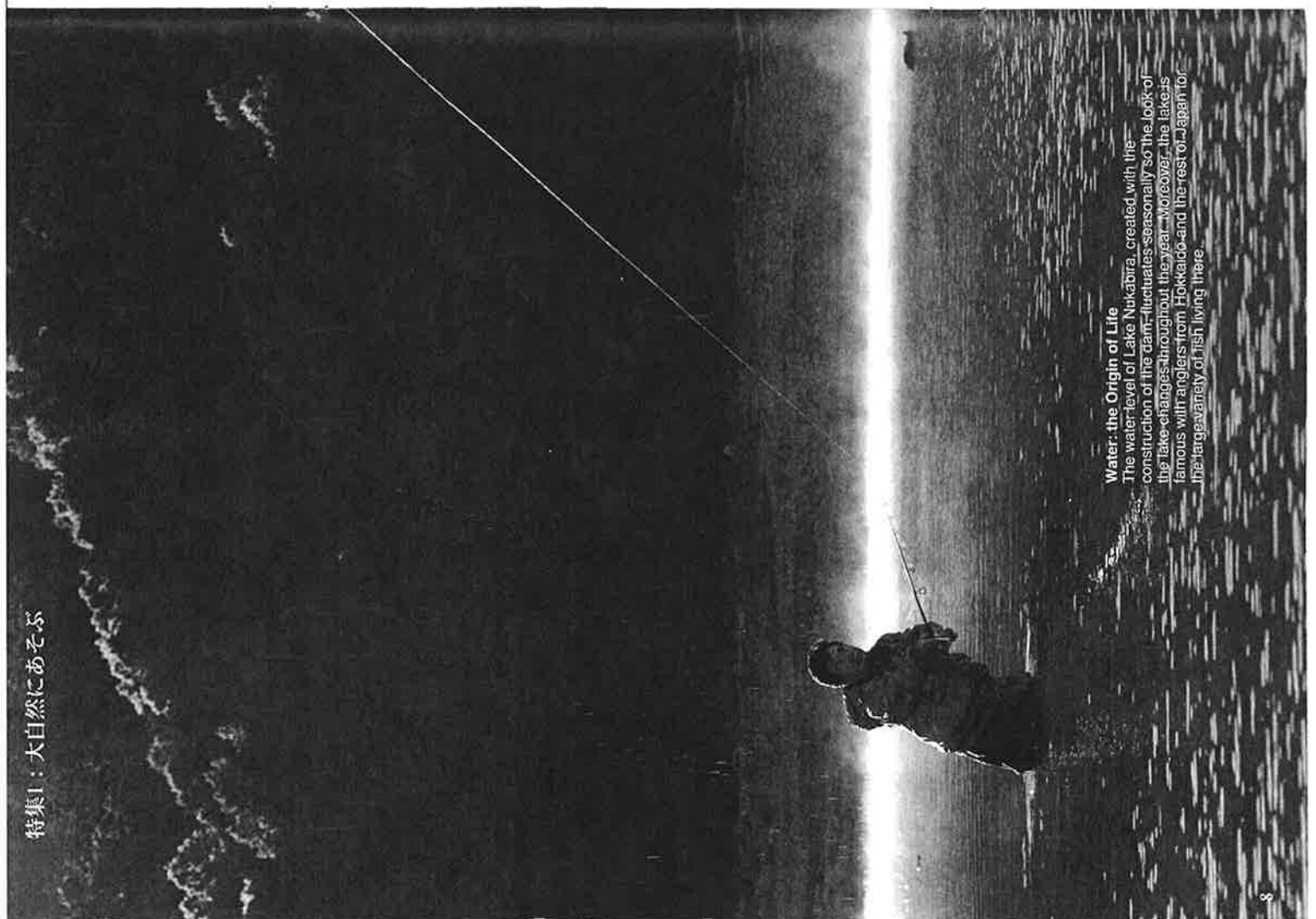


山本 英一さん

上士幌アイシング
クラブ会長
Hidetkazu Yamamoto

鱒平湖は、ダム建設によってできた人造湖。
季節によって水量が変化し、湖はさまざまな表情を見せてくれる。
それにも増して多様な魚が生息していることでも有名。
全道、全国の釣りファンが熱い視線を注ぐ数少ない湖。

水が与えし生命のふるさと



Water: the Origin of Life
The water level of Lake Nukabira, created with the construction of the dam, fluctuates seasonally so the look of the lake changes throughout the year. Moreover, the lake is famous with anglers from Hokkaido and the rest of Japan for the large variety of fish living there.

自然の恵みに感謝して

農業のまち上土幌。酪農王国ともいわれるこの地で、いま新しい酪農経営の形が育っています。将来を見すえ「安心、安全な食」の提供を...若い酪農家が挑戦する大きな夢と、酪農の魅力を聞かせてください。



いのちを育むもの



酪農を営んで4代目となる新村さん夫妻。畑作、畜産、酪農などの多様な営農形態がありますが、新村さんは酪農専業農家です。日本の食糧産地とまで

いわれる上土幌の酪農。近代化、大規模化が進む一方で、従事者の高齢化、後継者不足などの問題もあります。しかし、新村さん夫妻のような若い世代が、新しいスタイルで酪農に取り組み、この上土幌でも生き生きとあります。

「子供の頃は、大変な仕事だと思っていました。でも、酪農は自分のところで新鮮な牛乳がとれるわけです。ほは人の命にかかわる大切なもの。生産性だけを重視するのではなく、安全、安心な食を生産者の立場から見つめ直したいと思いました。」

そして、新村さんは試行錯誤を繰り返して、乳製品の製造に着手。現在、

牛乳、ミルクシヤムやチーズケーキなどをオリジナルブランドとして販売、販売しています。添加物の入っていない安全な食品として徐々に広がりをみせ、上土幌町の新しい特産品に成長しています。

「広い草原で牛たちが草を食べ、そして健康な牛乳を搾らせてくれる。自分で学び、考え、創造する魅力ある仕事、そしてだれもがイキイキするような本来の牧場の姿を自分の手で育てていきたいんです。」

新村さんは、常に牧草地で草の状態で、上の状態を見ています。牛たちがおいしい草を食べ、美味しい牛乳を出してくれるように草刈りに取り組んでいるのです。

「これからも色々な人たちの助けを借りながら、もう一度この場所での美味しい牛乳を味わいたいと思つてもらえるような牧場を一生かけてつくっていきます。」

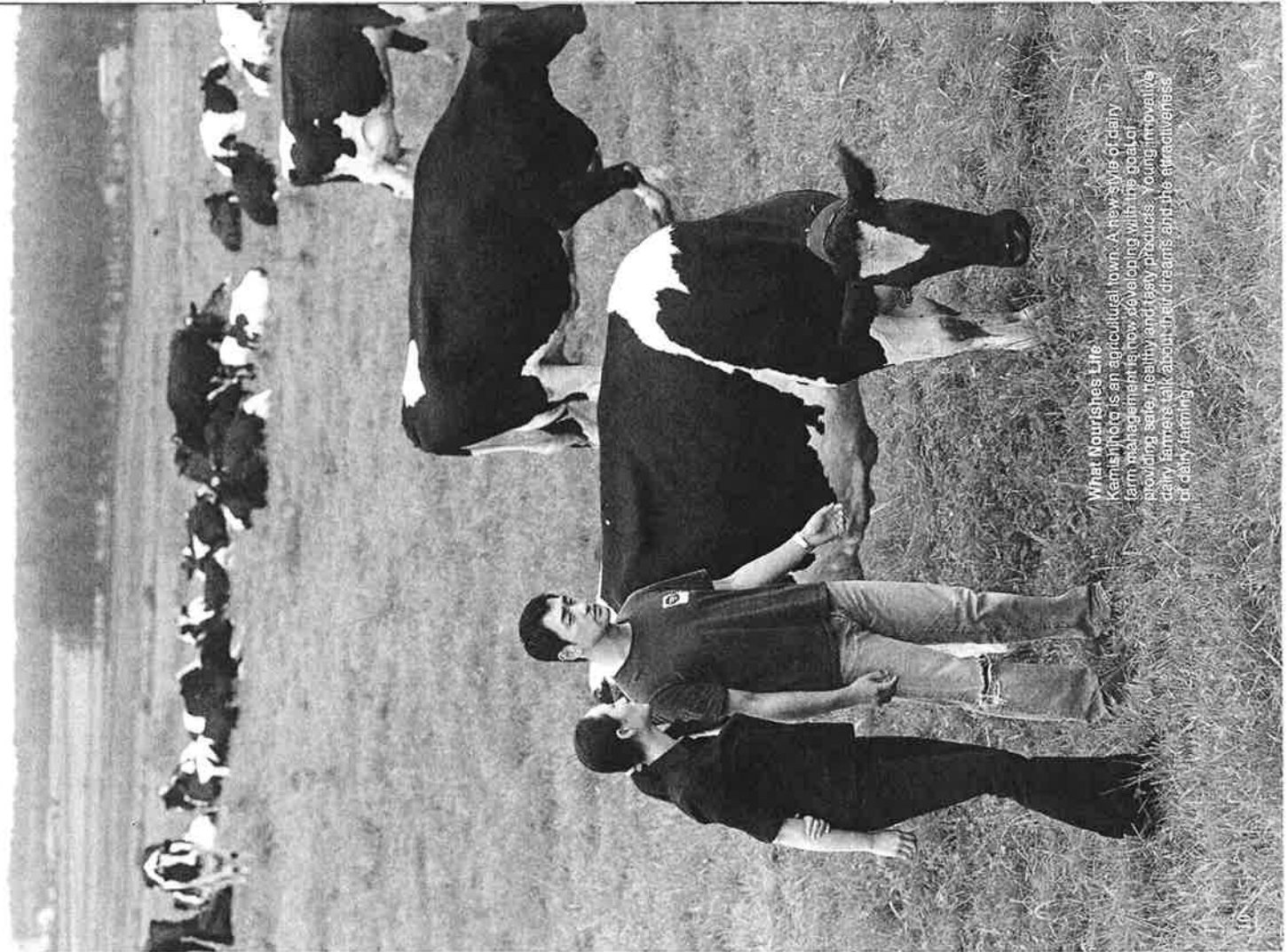
十年前、二十年前を買継いだ酪農が、北の大地、上土幌で大きく愛を広がっています。

酪農家 新村

Hiroaki Shimamura
Eri Shimamura

浩隆さん 恵理さん

What Nourishes Life
Kamishiro is an agricultural town. A new style of dairy farm management is now developing with the goal of providing safe, healthy and tasty products. Young farmers talk about their dreams and the attractiveness of dairy farming.



自然の恵みに感謝して



上士幌町では保健医療福祉の充実により誰もが安心して暮らせるまちづくりを柱として掲げています。

この実現に向け、保健部門の中心である健康増進センター内に整備した在宅介護支援センターを地域ケア体制の拠点として位置づけ、地域ケア会議を通して、保健、医療、福祉の連携を強化する中で、情報の一元化・共有化を図り、きめ細かく、質の高いサービス提供体制を目指し

ています。

この地域ケア会議のメンバーでもある石川京子さんは、ホームヘルパーとして高齢者の役しをサボっていません。

「ちよと手を貸してあげるだけで、日々の暮らしが楽になるお年寄りがたくさんいらつやいます。買ひ物や、掃除、洗濯など、若い人は感じないでしうが、お年寄りには

重労働なんです。その支えになれれば嬉しいですね」

その人にある支えが、健康状態などにも気を配り、支えが必要な方をとりまく状況を察して、一番いいプログラムを作ります。町の誰もが安心して暮らせるようにこの方針がそのまま石川さんの願いです。

「お年寄りの多くは、生まれ育つたこの町で、老後も楽しく暮らしたいと願っています。お年寄りが元気で生き生き暮らせる町つていいですよ。そのために、私達職員が保健や医療、福祉の専門的な知識を学び、思いやりとやさしさをつらつと必要の人に必要なき援をしていきたいのです」

ふれあつて、心がいきいき

自分が生まれ育つたまちで心豊かに暮らしたい。

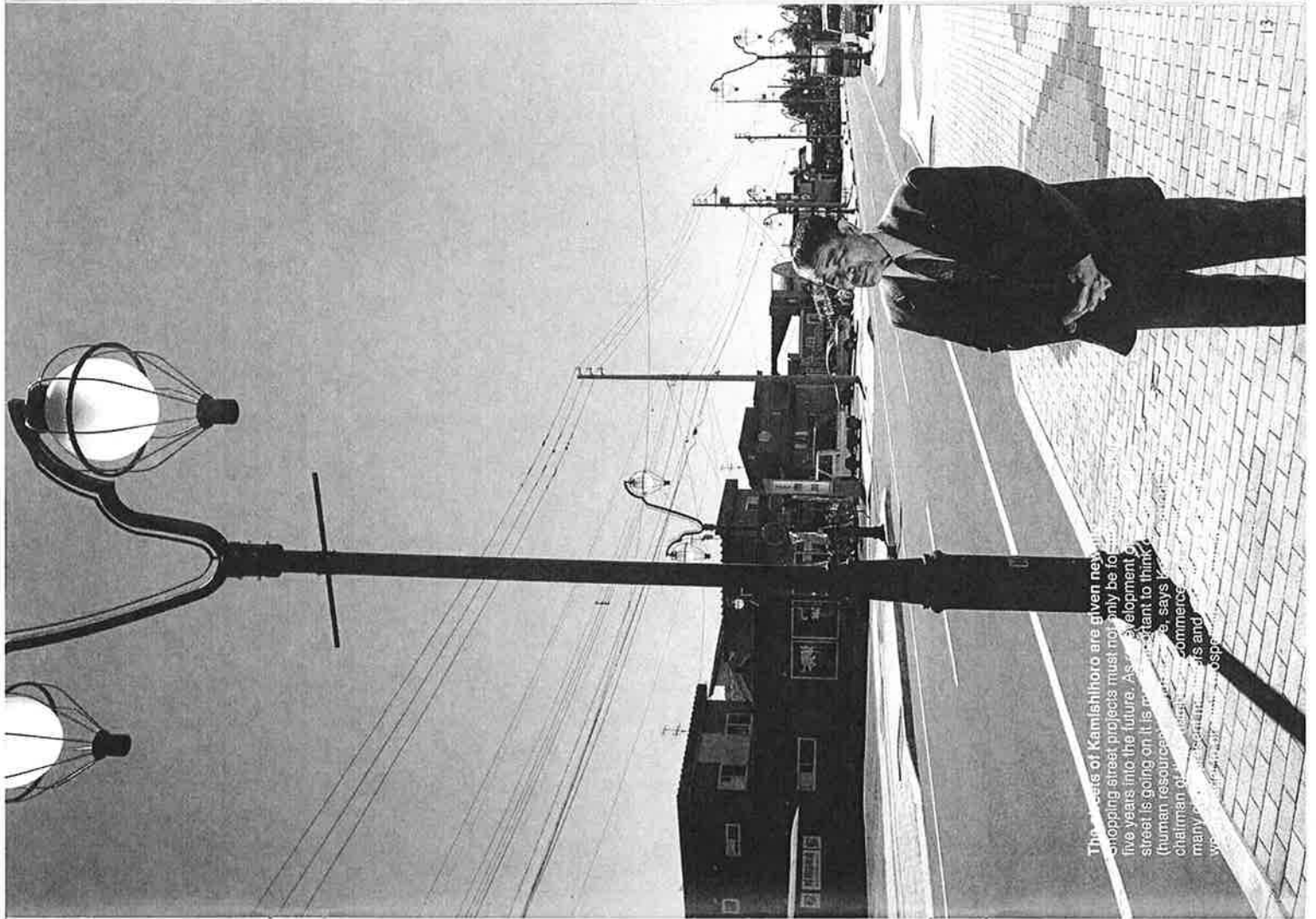
高齢化が進む中、若い世代との交流を図りながら保健・医療・福祉の情報を地域で共有し次代を意識した密度の高い地域システムを確立します。



ホームヘルパー **石川 京子さん**
Kyoko Ishikawa



Helping and Brightening Lives
 Many citizens hope to live happy and healthy lives in the towns where they were born and raised. The town of Kamishihoro promotes exchanges between the generations. It also gives access to health, medical, and welfare information to help them realize this dream. The town will establish multi-support systems to span generations.



The streets of Kamishihoro are given new life through street projects that not only be for the next five years, into the future. As a development of street is going on, it is more important to think (human resource) about the future. Kamishihoro (chairman of the Kamishihoro Chamber of Commerce) says that many of the streets are still in the process of development. (http://www.kamishihoro.jp)

【第2】自然の恵みに感謝し

人が作る 生きた町並み



今よりも5年後の商店街を見据えた活動を。近代化事業が行われる中でハード面よりもソフト面が大切だと懸念つづけている橋内さん。経営者、事業主の高齢化が進む一方で、未来の起業家育成に力を注ぎたいと未来像を描いています。



人口の減少、少子高齢化、後継者問題など、上士幌町でも、他の地方都市が抱える問題を同じように抱えています。しかし、町では魅力ある商店街への未来像を描け、平成4年から近代化事業を計画し、平成10年より着手しました。その中心的存在が、上士幌町商工会です。現在、商工会の会員は11事業所。その良さを誇る橋内孝三さんは言います。

「近代化事業によって細かに町並みは美しく、新しくなった店が建ち並んでいます。でも問題は、これからのソフト面。経営者の高齢化もありますし、過疎化の問題もあります。でも5年、10年後にもしっかりと経営が成り立つように今からみんなで作らなくては」

大正時代に十勝三股で木材業が盛んになり、また戦後の機平ダム建設工事などで、多くの人が職を求め上士幌に入り、町が一気に活気化した時代もありました。そうした前代を背景に昭和59年、商工会が発足。当時は、地域商業発展のために、事業主の資金面などのバックアップが主な役目でしたが、現在は地域振興

の団体として幅広い活動を求められています。町のイベントへの協力、参加、農産物、農産物や養蚕などの良質な地場特産品の開発や販路拡大などを積極的に行うと同時に、若い起業家や新規事業者の育成を前代な使命としています。

「町の活性化が商店街の活性化につながるのですから、みんなが知恵を出していかなくては、そのためには、地域で人材を育てるの、仲間である力、未来を真側に抱き合える力が必要なのではないでしょうか」

商工会が発足して40年。町の商業を変えてきた商工会は21世紀にさらに、さらに民間の強い自立と後継者づくりのために、新たな事業を企画したのです。



橋内 孝三 さん
KOZO KESHUBI